

YWVOB 会 会報 No.89

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

2025年10月11日発行 <https://ywvob-hp.jpn.org>



～ 89号の目次 ～

・YWVOB 会長ご挨拶	1	・2026 年度年会費納入済み会員リスト	14
・2026 年度 OB 総会案内	2	・ご寄付一覧	15
・2025 年第 1 回役員会報告	3	・訃報・入退会 その 2	15
・2025 年第 2 回役員会報告	4	・シニア歩こう会 (2024 年秋の部～ 2025 年春の部) 報告	16
・2025 年第 3 回役員会報告	5	・清陵祭国大山荘訪問記	21
・編集委員会からのお知らせ	6	・自由投稿①「日本一低山縦走記」	21
・第 72 回 OB 山行報告 富山 第 73 回中止報告	7	・自由投稿②「百名山の思い出 その 4・5」	23
・第 74 回 OB 山行案内 石割山	8	・自由投稿③「ロングトレイル踏破！」	28
・苗名小屋便り	9	・現役部員の活動紹介	33
・OB 会費納入のお願い	13	・観天望記 (編集委員会から)	35
・訃報・入退会 その 1	13		

■ YWVOB 会長ご挨拶

会長 西田雅典 (20期)

いつも OB 会活動への温かいご協力やご助言を頂き誠にありがとうございます。

今夏は記録的な猛暑が続きました。外出は億劫だし、家にいても熱中症リスクありで、困ったものでした。今年も 11 月 22 日の横国 Day の日に常盤台で 2026 年度 OB 総会、その後の大学主催交流会で恒例のワングルリードによるミハルカスを計画中です。現役も参加する YWV 懇親会も計画しています。今年もぜひ奮ってご参加ください。

OB 会活動は、OB 山行、山小屋行事、会報発行、HP 活用、メルマガ配信、部史編纂、名簿管理検討、役員会での討議、シニア歩こう会など引き続き大変活発です。一方で持続可能な形での活動の仕方、簡素化の工夫も重要なと考えています。また、1957 年 YWV 発足から 70 年が近づいてきました (来年の新入部員は 70 期)。記念行事について議論が始まっています。OB (Old Boy) 会の名称も時代的に古いのでこの機に替えてはどうかとも討議しています。

また、昨年から業界の違う OB 数人による現役への就活相談会を続けています。識者 OB による山小屋のノウハウ伝授も徐々に進んでいます。最近、現役では山行前に以前のような審査会を復活したと聞いています。OB としても安全な山行のアドバイスなどができるたらと考えます。

現役は明日の OB。色々な形でコミュニケーションを深めたいと思います。

<P6 へ続く>

2026 年度 OB 総会案内

総務委員長 竹村 昇 (13期)

2026 年度(2025/10-2026/9) YWVOB 総会招集ご通知

会長 西田雅典

日 時：2025 年 11 月 22 日（土）14:00～16:00

開催場所：横国大常盤台キャンバス 都市科学部講義棟 102 号室

開催方法：実開催および ZOOM によるオンライン（ハイブリッド方式）

議 案：<報告事項> 監査報告、活動報告、決算報告、会員入退会

<決議事項> 2026 年度活動計画、予算案、役員改選

今年の YWVOB 総会は、常盤台キャンバス開催の横国 Day と同時開催となります。現役の夏合宿報告もあります。また 16:15 からは第 1 食堂で横国 Day 交流会（自由参加）が行われます。さらにその後ワングルで懇親会を別途計画中です。皆様、総会開始(14:00)に間に合うように、ご参集をお願いします。

なお、OB 総会前のイベントは現在検討中です。イベントを実施することになりましたら、ホームページや 11 月初旬送付のメルマガでご案内します。

■OB 総会参加手続き（①Google フォームでのご連絡、または、②ハガキでのご連絡）

①Google フォームでのご連絡の方

- 参加手続き（実参加かオンライン参加かなど）及び近況調査は、右の QR コードをスマートホ等で読み込んで、Google フォームにて回答をしてください。締切日は 11 月 10 日です。なお、10 月、11 月のメルマガでも総会参加をご案内します。
- オンライン参加でご連絡を頂いた方には、メールで ZOOM の案内を送付します。
- 総会不参加の方も、OB 会活動へのご意見や近況報告（次回会報に記載予定）などを是非ご連絡いただければと存じます。



Google フォーム

②ハガキでのご連絡の方

- お手数ですがご自身でハガキを準備いただき下記宛先（名簿担当）まで郵送お願いします。締切日は Google フォーム同様に 11 月 10 日です。

《ハガキへの記載内容》

(1) 期 (2) 氏名 (3) OB 総会への出欠について：出席する・欠席する

※オンライン出席には、OB 会へのメールアドレス登録が必要です。

(4) (OB 総会欠席の方は) 総会での議決権について：委任する・委任しない

(5) 近況報告、OB 会への要望やご意見

(6) 名簿の変更情報、追加情報などありましたらハガキに記載して下さい。

・郵便番号・住所・電話番号・携帯番号・メールアドレス・勤務先・所属など

《ハガキ宛て先》 〒273-0041 千葉県船橋市旭町 1-17-40 柏木修一宛（名簿担当）



メールアド登録
名簿係宛メール

■OB 会メールアドレステーデータの確認と登録方法について

①毎月 OB 会のメルマガを受信されている方は、名簿に登録されています。

②OB 会のメルマガを受信されていない方は、名簿係に連絡して登録をお願いします。

- 方法 1 名簿係へのメール連絡<meibokanri-mail@ywvob.org>
- 方法 2 ホームページ経由での連絡<https://ywvob.org/post-4934/>
- 方法 3 上記 Google フォームでの連絡

なお、毎月の OB 会メルマガの受信を希望しない方はその旨、記載して下さい。

③OB 会の名簿システムはセキュリティ強化したものを再構築中で、完成次第、会員 HP やメルマガで連絡します。



メールアド登録
HP

■ 2025 年第 1 回役員会報告

幹事長 白木政隆 (21 期)

2025 年 1 月 5 日 (日) 14:00 から、ハイブリッド(川崎市総合自治会館+Zoom)会議にて、2025 年第 1 回役員会が開催された。

【出席】

リ ア ル 嘉納(1)、吉野(2)、鈴木(9)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、堀内(18)、西田(20)、石垣(20)、
武藤(20)、安武(20)、白木(21)、松本(29)、親跡(34)、
オンライン 竹村(13)、白須(17)、小浜(17)、山口(18)、磯尾(19)、柏木(25)、小野(34)、石川(41)、
現役リアル参加 塩坂(65)、笠井(66)、斎藤(66)、難波(66)、福原(67)、山河(67)、伊藤(67) 計 29 人

【議事内容】

1.会長

- ・本日、現役の新旧幹部 6 名と 4 年生(今年 4 月に OB 会員)にも参加していただき、感謝申し上げたい。
2027 年 5/1 の YWV 発足 70 周年に向けての計画の検討を始めていきたい。

2.審議事項並びに関連報告事項

①2025 年度雪下ろしスケジュールについて

- ・雪下ろしのスケジュールについては 1/17~19、2/13~21 (グループ分けして小屋入り) は現役中心で実施する。
- ・3 月については 3/8~10 予定で OB 中心の企画を検討中。→承認

②70 周年記念行事案作成開始について

- ・2027 年 5/1 の YWV 創設 70 周年に向けて、次回役員会から体制・企画案を練っていき、会員からの意見・要望も求め検討していく。→承認

③現役報告

- ・新旧幹部より挨拶をいただく。67 期体制は主将：福原、副主将：山本・菅野、小屋：山河・伊藤、会計：五條

④2025 年度以降の会報発行について

- ・作業の軽減、作成・送付費用の削減案として年 3→2 回の発行とする (本年度は 1 月と総会前の会費支払依頼と連動して発行)。また Web サイトとの連動によって印刷ページ数の削減を図り、コストの効率化を検討する。→承認

3.報告事項 (審議事項として扱うものにはコメント記載)

<総務委員会>

- ・名簿については登録 OB 会員の定義(整理)も含めて、問題点をヒアリング・抽出して討議していきたい。

<部史編纂委員会>

- ・昨年秋にデータの喪失等があった。今後バックアップ体制も含めた対応策を検討する。

<HP 委員会>

- ・今後は YWVOB 会 Web サイト以外の情報発信(LINE 等)も強化していきたい。
- ・統合した Web サイト(OB 会+歴史資料館+OB 会名簿+現役)の全体管理やセキュリティ管理について、HP 委員会と Web サイト関係者が討議する会合を早急に開催する。→承認

4.次回役員会 4 月 20 日(日) 14:00~16:30 (川崎市男女共同参画センターすくらむ 21+Zoom) にて実施予定。

■ 2025 年第 2 回役員会報告

幹事長 白木政隆 (21 期)

2025 年 4 月 20 日 (日) 14:00 から、ハイブリッド(男女共同参画センター「すくらむ 21」+Zoom)会議にて、2025 年第 2 回役員会が開催された。

【出席】

リ ア ル 嘉納(1)、鈴木(9)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、竹村(13)、堀内(18)、西田(20)、石垣(20)、
武藤(20)、白木(21)、楠本(28)、松本(29)、親跡(34) ※会員参加者 増田(20)
オンライン 白須(17)、山口(18)、安武(20)、小野(34)
現役リアル参加 福原(67)、伊藤(67) 計 21 人

【議事内容】

1.会長

- ・現役の幹部 2 名に参加していただき感謝。5/2 から計画している小屋合宿では現役約 20 名+OB が参加予定。

2.審議事項並びに関連報告事項

①SAKURA サーバの運用・管理について

- ・昨年発生した Web サイトでのインシデントについて連絡会にて対策協議を実施した。
- ・結果、1)アクセス時の管理用 PW の公開者限定、2)利用者のグローバル IP アドレス管理、3)バックアップ体制の見直し、4)緊急時の組織的体制の整備等を推進していくことが立案された。→承認
- ・OB 会サイト、歴史資料館、名簿システムのインシデントについて、各委員会から状況説明と対策が報告された。
- ・歴史資料館のバックアップ担当として 20 期武藤氏が部史編纂委員になる担当追加が提案された。→承認
- ・サーバ全ての情報管理体制・組織体制について OB 会則等で明文化する提案がなされた。→継続検討

②2025 年度決算中間報告

- ・予定通りで進捗しているが、前納会費納入者が増加する傾向にある。小屋利用者の増加で小屋燃料費は増加見込み。
- ・会費納入者の人数等を役員会で共有化して欲しい (→承知した)。

③現役報告

- ・1/17~18 雲取山、苗名小屋 1 月 1 回、2 月 3 回、3 月 1 回、4 月新歓活動中心に活動中との報告があった。
- ・今後の予定では、4 月大菩薩嶺、5 月小屋開き、6 月乾徳山、大岳山、金峰山、7 月天狗岳、尾瀬を計画中。
- ・インスタグラムでも公開中なので是非見て欲しい。

https://www.instagram.com/ynu_wandervogel/?hl=ja



④YWV 発足 70 周年記念企画について

- ・アンケートの内容を紹介した。今後より多くの会員が参加、利用できるような提案を広く集めていく。→承認
- ・「OB 会」の名称について、時代にふさわしい新名称を検討してはどうかとの意見があった。→継続検討

3.報告事項 (審議事項として扱うものにはコメント記載)

<総務委員会>

- ・メルマガについて、今後も新規登録会員を増やしていきたい。
- ・現役の就職相談会について、OB 会の正式活動としての予算計上(参加する現役の参加費補助)をして欲しい。→承認

<編集委員会>

- ・会報の発行は OB 総会日程(横国 Day に連動予定)が決まりしだい、内容・スケジュールを連絡する。

<OB 山行委員会>

- ・次回の OB 山行より、不測の事態に備えて、緊急連絡先を参加者に提出してもらうことを決定した。

<OB 小屋委員会>

- ・小屋開きが5/2から現役+OB(少し早めに小屋入り)連動でスタートする。今年は雪が例年より残っている模様。

<部史編纂委員会>

- ・バックアップ方法の検討とともに格納されているデータの整理統合を実施していく。

<HP委員会>

- ・広報活動としてLINE公式アカウントを活用中。現在ユーザ数は52名なので友達登録を増やしていく。

4.次回役員会 7月12日(土) 14:00~16:30 (川崎市男女共同参画センターすくらむ21+Zoom)にて実施予定。

■ 2025年第3回役員会報告

幹事長 白木政隆(21期)

2025年7月12日(日)14:00から、ハイブリッド(男女共同参画センター「すくらむ21」+Zoom)会議にて、2025年第3回役員会が開催された。

【出席】

リアル 嘉納(1)、吉野(2)、鈴木(9)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、堀内(18)、磯尾(19)、西田(20)、石垣(20)、武藤(20)、白木(21)、親跡(34)、小野(34)

オンライン 竹村(13)、白須(17)、山口(18)、安武(20)

現役リアル参加 祖父江(66)、福原(67)、山本(67)

計 21名

【議事内容】

1.会長

- ・70周年企画について段取りを検討したい。現役の3名参加に感謝、山行時の審査会が復活したと聞いている。

2.審議事項並びに関連報告事項

①2026年度OB総会について

- ・横国Dayが11/22(土)に決定したので、総会も同日14:00~16:00に都市科学部講義棟102教室で開催したい。→承認

②名簿管理案について

- ・今後の名簿管理について、「会費PAY」へのアウトソーシング提案が総務委員会より出された。今後サンプルデータを使い、OB会名簿として活用できるか検証したい。→検証開始については承認
- ・一方で名簿の利用目的について、役員会で再度合意形成した上で、並行してOB会内で名簿を管理する方法も討議・検討すべきとの意見が上がった。→アウトソーシング案と合わせて継続検討

③OB会報第89号発行案について

- ・発行内容についての説明がなされた。→承認 日程案として原稿締切9/12、発行10/11が提案された。→承認

④現役報告

- ・新入部員数は計30人(男性23人:女性7人)、1年生:20人、2年生:7人、3年生:1人、4年生:2人だった。
- ・結果総部員数は計84人(60:24)、1年生:20人、2年生:23人、3年生:27人、4年生:14人になっている。
- ・4月に計画した4~7月の報告があった(4月大菩薩嶺、5月小屋開き/塔ノ岳/清陵祭出店、6月乾徳山/大岳山/金峰山、7月天狗岳/尾瀬)。
- ・8~9月の夏合宿に向けては、参加延べ50人にて以下の内容で計画中(本年度から審査会再開とのこと)

8月…谷川岳(1)／南八ヶ岳／北穂高・奥穂高／富士山／雲ノ平／白峰三山
9月…朝日岳・雪倉岳／谷川岳(2)／北岳・間ノ岳／聖岳・茶臼岳／八ヶ岳縦走／パノラマ銀座縦走／立山・剱岳等々

⑤YWV 発足 70周年記念企画について

- ・次回の総会で「OB会」の名称について変更することを提案する(最終決定は来年の総会)。→承認
- ・記念式典と記念品等の企画については新「OB会」の名称決定後、再来年の70周年に向けて準備を開始する。→承認

3.報告事項（審議事項として扱うものにはコメント記載）

<総務委員会>

- ・名簿関係のオンライン会議を実施した。

<OB小屋委員会>

- ・現役の小屋整備(棚制作等)に感謝する。OB小屋委員長がしばらく小屋に行けないので、現役、OBともに夏～秋の小屋の管理をよろしくお願ひしたい。

<部史編纂委員会>

- ・現役の山行記録について今後も継続して定期的な提供をよろしくお願ひしたい。

<HP委員会>

- ・OB会のWebサイトにログインするパスワードを変更した。メルマガにも記載しているので確認して欲しい。

4.次回役員会 10月19日(日) 14:00～16:30 (川崎市男女共同参画センターすくらむ21+Zoom)にて実施予定。

■ YWVOB 会長ご挨拶の続き

<P1からの続き>

OB会活動につき、引き続き、忌憚ないご意見をメール等でも結構ですのでお寄せください。また、隙間時間でもお手伝い頂ける方はまずはお気軽に役員会や諸企画へご参加ください。

(百名山踏破と同様に東海道踏破が流行っています。YWVでも踏破された方がおられます。今後、五十三次の模写画を順次添付させて頂きます)



拙作 ペン水彩模写 日本橋

■ 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 石垣秀敏 (20期)

OB会報は長い間、年3回発行してきました。しかし、最近の物価上昇には驚くばかりで、郵便料金もついに昨年10月に値上げされました。これを機会に、OB会報の発行に関して費用低減・編集作業量(労力)の削減を図るための検討を役員会で行い、その結果今年から年2回発行とすることになりました。今年は1月・10月発行と変則でしたが、来年以降は3-4月頃と9-10月頃の発行にしていきます。OB会員の皆様、発行回数が減り申し訳ありませんが、ご理解をいただきたいと共に、今後ともOB会報を宜しくお願い致します。

■ 第72回OB山行報告 富山(とみさん)、第73回中止報告

OB山行委員長 山口貢三(18期)

【第72回OB山行 日時、天気】 2025年1月25日(土) 天気: 曇り

【実 動】 JR内房線 岩井駅 9:30→福泉寺→南峰(観音堂)→11:45 北峰 12:20→福泉寺→13:50 岩井駅

千葉県の山はOB山行史上初です。目的地である富山へは内房線岩井駅が起点となります。横浜からそこまでは電車で3時間以上も掛かりました。登山口の福泉寺では恒例の挨拶を済ませ、福泉寺の墓場の横から登り始めました。



1合目、2合目の標石を過ぎると、水害でやや荒れた道を進み、最後の急登と石段を上ると、そこは朽ちかけた観音堂のある南峰でした。南峰は行き止まりなので、石段を戻れば、南峰を巻くように道が続き、北峰(富山山頂)に辿り着きました。大勢のハイカーがいる広場で昼食としました。



あいにくの曇り空で、360度開けた展望台に上るも、対岸の三浦半島さえも見えません。展望台の案内図では富士山、南アルプスまで見えるそうです。残念! 昼食後は、ここから西に延びる尾根を下る予定でしたが、水害で荒れたままの道であることがわかり、その先予定していた水仙遊歩道も割愛し、来た道を戻ることにしました。地元の人々が水仙を大切に育てている土地柄なのか登山口の福泉寺に近づくにつれ、道端にまで水仙が植え付けられていて、水仙はこれで十分堪能できたと思います。早めに山行が終了したので、電車組は木更津で打ち上げ、電車内もその勢いのまま盛り上がり、おかげで帰りの電車旅3時間が短く感じました。



【参加者】 20名

嘉納(1)、細田(7)、山本(10)、安藤(11)、榎本(12)、竹村(13)、小口(14)、小泉(15)、白須(17)、向井(18)、山口貢(18)、山口幸(18)、渡部(18)、石垣(20)、西田(20)、武藤(20)、白木(21)、伊藤(23)、小野(34)、親跡(34)

【第73回OB山行】5月17日に予定していた妙義山中間道は、雨天のため中止となりました。

第74回OB山行案内 石割山（いしわりやま）山梨県

OB山行委員長 山口貢三（18期）

山中湖の北東に位置する石割山に登りませんか。富士山を間近に眺め、山の名前の由来となった石の字型に割れた巨石をじっくりと観て、下山地では石割の湯にゆっくりと浸かりましょう。初めての方も大歓迎、皆さんの参加をお待ちしています。

【日時】2025年10月25日（土）【行き先】石割山（1413m）

【集合場所、時間】Aコース：富士山山中湖バス停 9:40 Bコース：山中湖平野バス停 10:10

【Aコース】

富士山山中湖バス停(9:50) ⇒タクシー ⇒(10:00)長池山登山口→大平山→(13:05)石割山→石割神社→(14:25)石割の湯（入浴）

体★★ 歩行時間3時間40分 総距離約6.9km 累積標高差上り約607m/下り約672m

【Bコース】

山中湖平野バス停(10:25)→参道入口→平尾山→(13:05)石割山→石割神社→(14:25)石割の湯（入浴）

体★☆ 歩行時間2時間50分 総距離約6.6km 累積標高差上り：約478m/下り：約454m

【交通の便】高速バスが便利ですが、各自で予約が必要です。

【行き】バスタ新宿 7:15(7:45) ⇒高速バス ⇒9:23 富士山山中湖バス停 ⇒(10:09)山中湖平野バス停

JR横浜 6:59 ⇒8:43JR御殿場 8:50 ⇒バス ⇒9:39 富士山山中湖バス停

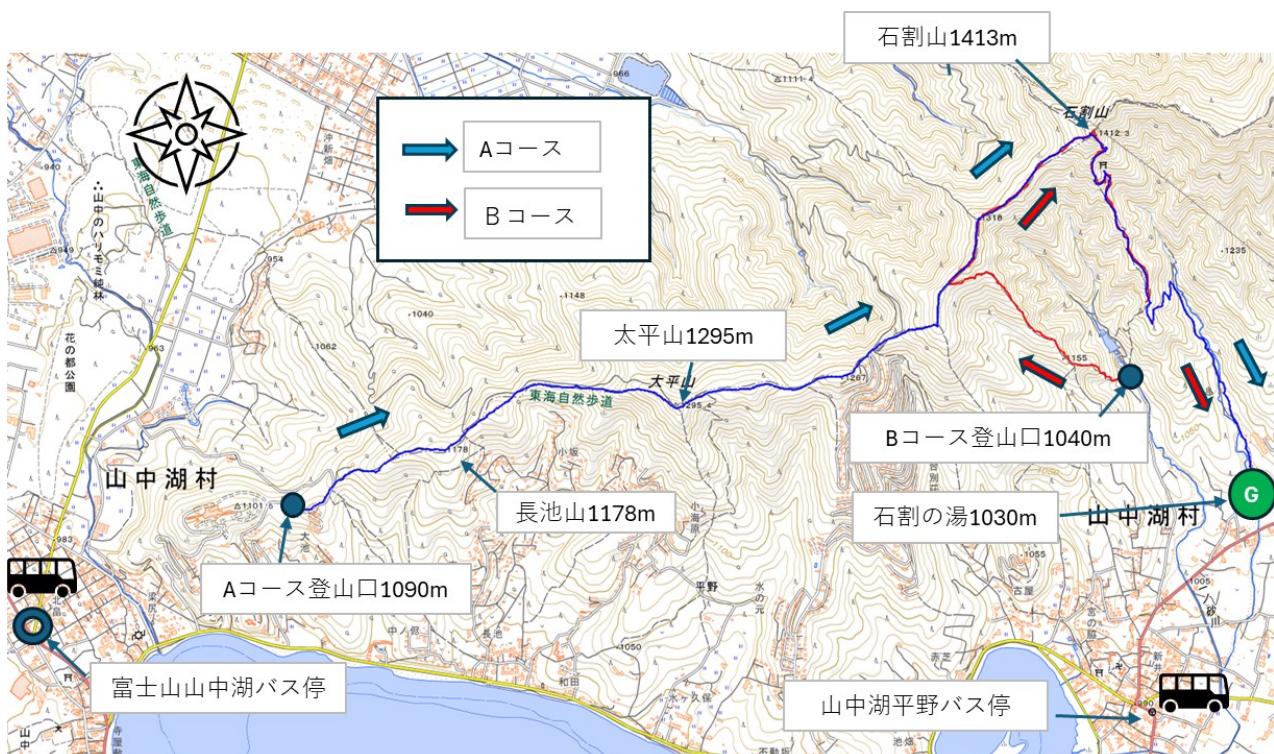
横浜駅西口 7:30 ⇒高速バス ⇒9:39 富士山山中湖バス停 9:39 ⇒9:50 山中湖平野バス停

【帰り】石割の湯（15:53）⇒旭ヶ丘（16:25）⇒（18:55）バスタ新宿または旭ヶ丘（16:25）⇒（17:50）御殿場駅

【参加費】500円 【持ち物】雨具、昼食等、日帰りハイキング用具

【申し込み方法】連絡できるメールアドレスまたは電話番号および緊急連絡先（続柄、電話番号）を添えて山行委員会までご連絡願います。E-mail:obsanko-mail@yvob.org またはHPからも申し込みいただけます。

申し込み期限 10月18日



■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員 安藤貞利 (11期)

2025年1月から8月までの小屋活動をまとめて報告します。ここ2年間雪が少なく、現役が中心になり雪下ろしをしてきました。今年は2022年以来の大雪でしたが、現役の大部隊による雪下ろしで小屋維持ができました。昨年の大晦日には41期石川が、友人と小屋を目指しましたが、サラサラのドカ雪で小屋までたどり着けませんでした。その後65期塩坂、64期前田、65期福松、66期林が、トレイスを作つて小屋入りして、大晦日に雪下ろしをしました。その後、大雪が続き、第1回の雪下ろしは1月17日～19日に現役17名、OBが64期前田、14期小口、11期安藤で、支柱の掘り出しと造林小屋の屋根も雪下ろしました。軒下までの雪は、久しぶりでした。雪下ろし後の屋根は、帽子を被つたような雪が三角屋根に残りました。



第1回雪下ろし前の状態



雪下ろし後の状態

第2回目の雪下ろしは、現役中心で2月13日～15日に63期～68期の16名が行いました。2月18日～20日にも大雪の中、断続的に現役が小屋に入りました。雪面は、ほぼ軒の高さとなり三角屋根の帽子もますます大きくなつて、屋根がしなつてゐるのかと心配されるほどでした。



2回目雪下ろしの屋根



三田原山より妙高山 頂上に到達した田中が撮影

3月は、8日に安藤、小口がスキーで20期武藤、石垣、西田、21期白木がスノーシューで小屋へ集合して、夜の宴会と雪上散策を楽しみました。9日に34期田中、小口、石垣、武藤が三田原山を目指して登りました。



4月24日 41期石川が中国から帰り、飛行機から撮影した妙高山塊 中央最下部に小屋

5月の連休は、OB 現役がそれぞれの日程で小屋入りしました。前半組4月28日～5月2日には、安藤、榎本、13期竹村が入り、後半組5月2日～4日には小口、西田、武藤、30期笹倉、63期水内、64期西川、65期塩坂、66期から69期の現役20名(計27名)が入りました。前半組は水道を開通させるため、井戸掘りと、ホースジョイント部を雪の下から掘り出しました。久しぶりに井戸は1mの雪の下でした。開通させるまで3時間掛かりました。この2か所の位置を周りの木から測定して、小屋日誌に記載しましたので、雪の下から探す際はこれを参考にしてください。30日に空プロパンボンベを池田興産に届け、5月1日は安藤、榎本が三田原1600m地点までスキー登行して沢を下りましたが、途中滝で雪が消えた部分があり、滝を巻いて下りてきました。

後半組は、現役2人が斑尾山に登りました。あのメンバーはチェーンソーでの伐採(カラマツ林の間伐)や太陽光パネル設置など小屋整備を、笹倉や小口のノウハウ指導で実施しました。また、現役が頑張って約1m積雪の中、バーベキュー用のカマド位置を探し当てて除雪し、雪上バーベキューをセットしました。OBは黒姫方面でのニジマス釣り(西田、西川釣り隊で17尾)、小口と武藤は三田原への登山をしました。現役は分散し



あちこち探して掘った井戸掘り



現役小屋活動

て、雪の黄金の湯、野尻湖とナウマン象博物館、いもり池などの散策、小屋周辺の散策もしました。5月3日夕食は雪上BBQで、現役と交流ができました。

小屋開け行事はバラエティーに富んだ貴重な経験をした2日間でした。

今年の樹液採りの報告です。1月にいつものイタヤカエデ2本の木に20リッターのタンク1本ずつ地上1mぐらいのところで細引き縄で支えるように固定しました。2月17日には雪に埋もれたタンクを掘り出して確認しました。タンク内に全く樹液はなく、ホースが採取口のジョイントから外れていたため、固定し直しました。3月8日には、2m近く雪に埋もれたタンクを掘り出して、中身を確認しましたが、ホースは繋がっていたにもかかわらず樹液はタンクに全くありませんでした。4月28日には、小屋に近い木の周りの雪は消えて、タンクが地面に転がっていて、樹液は満タンに入っていました。もう一つのタンクは3月に二股に分かれた枝を使って縄でタンクを固定していましたが、写真のように吊り下げられていました。こちらは蛇腹注ぎ口ノズルが2か所で割れていたため樹液が漏れたようで、半分の10リッターしか入っていませんでした。そのあと合計30リッターを3台のストーブで加熱し、2日半かけて300CCに煮詰めました。さらさらとした樹液でとても甘いものでした。ホットケーキにかけて食べましたが、最高に旨いものでした。4月末の樹液タンク回収となり、どうなったか心配でしたが、上手く行きました。これからは、積雪の状態に対応する固定のやり方を考える必要あります。



2月のイタヤカエデ樹液なし



3月2mの雪を掘り出す



4月タンクに半分樹液が貯まる

6月の山菜取りは、5月30日～6月1日に榎本、安藤、小口、14期鈴木、下田、17期渡邊、笹倉、笹倉友人櫻井、63期金、65期塩坂の11名が集まりました。5月30日は池田興産からプロパンガス2本を引き取り、小屋で筍採り。小屋東側の散策路の周りに筍が出ていました。31日には、生憎の雨でしたが仙人池散策を行いました。6月2日～4日に13期竹村と友人3人が小屋に入り、夢見平散策、五八木でワラビ採りをしました。その時、井戸付近にスコップ放置を発見。また豆炭起こしが熱いのに靴箱の上に置いたため、靴箱のプラスチックを溶かし固着していましたので、注意が必要です。

7月18日榎本車にて9期鈴木、11期安藤、12期榎本が小屋へ入りました。プロパンボンベが2本空になっていたので、そのまま池田興産へ向かいました。池田興産でガスの充填をお願いしたところ、お盆休みが入る為、ボンベ引き渡しは8月18日以降が都合が良いとの事でした。夕食の買い出しをして小屋へ戻りました。7月19日朝7時過ぎに長野から14期小口が来て、朝食後8時に夢見平に向けて4人で出発しました。

駐車場8時半—笹ヶ峰ダム階段上9時—菖蒲池分岐9時半—氷沢避難小屋10時半—六美展望台11時半—笹ヶ峰ダム13時到着



満々と水を湛えた乙見湖



妙高簡易製材所跡地で



傘寿を迎えた鈴木前会長

この日はすっきりと晴れて、満々と水を湛えた乙見湖から見た焼山の姿が素晴らしいものでした。ショウウブ池への分岐で、私が氷沢避難小屋のロングルートを行こうと提案して、そちらに向かいました。避難小屋は薪ストーブがある休憩室と布団もある板の間があります。外の階段を下りるとトイレがあって、きれいに手入れされていました。そこから長い水平軌道跡を辿って展望台で一息ついて、乙見湖に戻りました。

昼食は小屋でソーメンでした。麺つゆがないので、汁は醤油とみりんと料理酒を混ぜて作りましたが、ちょっとアルコールの強い味になりました。3時過ぎに29期松本が大きなロールケーキとワインを持って小屋へ到着しました。バーベキューは5時から始めて焼きそばで締めました。暗くなって小屋へ引き上げてから、鈴木の傘寿お祝いでケーキに8本のろうそくを立ててワインで乾杯しました。外では螢があちこちで光り、真っ暗な小屋からどこで光るか目を凝らして見ていました。この後が、今回のメインテーマにしたスペイン巡礼の道とヨーロッパのスライドショーでした。7月20日は、草刈りと小屋周り整備。昼は蕎麦でしたが、粉末だしを見つけて本格的麺つゆを作り、美味しく食べました。麺つゆがない時はたくさんある粉末だしを使ってください。小屋への道の草刈りの際、造林小屋に近いU字構の谷側が落ち込んでいて、車が大きく傾くところが1か所ありますので、今後の整備でU字構の下に砂利を入れて谷側を高くする必要があります。4時に赤倉温泉のワンコイン入浴の温泉へ出かけました。日曜日という事もあって、5軒のうちの開いていた遠間旅館へ行きました。大きな風呂の真ん中に仕切りがあり、源泉の熱いお湯が直接流れて来ない湯が心地よいものでした。7月21日2階の布団棚が乱れていたので、すべて出してたたみ直して敷布団、掛布団、毛布と種類ごとに入れ直しました。夏に必要な炬燵布団類は、3段目を整理して上げましたので、必要になるときは、3段目から下して使ってください。3段目に有った段ボールの布団類は、次回処分するように下におろしてあります。11時に小屋出発して帰路に就きました。

8月のお盆には、14日に29期松本が7月に起動しなかった草刈り機に新しいプラグを取り付けて草刈り。15日はあまとみトレールを歩いて、立ち寄った11期安藤が窓ふき、床掃除、ガス台掃除。8月29日、30日に63期水内、67期山河、69期和田が小屋入り。台所の水道から水が出ないことが判りました。ハンドルを外しても水は出ないので、原因は不明でした。29日に29期松本が、充填済みのガスボンベを小屋に運び込みました。

あまとみトレールの紹介

信越五岳は、斑尾山、妙高山、黒姫山、戸隠山、飯縄山の5つの山ですが、「まみくとい」や「またみにくるといい」と覚えられますが、このトレールは雨飾山と斑尾山を横軸（あま）にして戸隠山と妙高山を縦軸（とみ）にした地形的な位置を名称としています。長野駅を起点に、斑尾山までの86kmに及ぶトレールです。現在、西野発電所のつり橋が通行止めで御巣鷹林道か笹ヶ峰林道がう回路になっています。



■ OB 会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎 (2期)

会計幹事 松本 和之 (29期)

OB会報第89号に同封の払込取扱票は、2026年度(2025年10月～2026年9月)OB会費等をお振り込みいただく用紙です。ゆうちょ銀行の各店舗窓口・ATMからお振り込みください。

年 会 費 : 2,000円 (2026年度の年会費)

前 納 会 費 : 10,000円 (6年分 (2026年度～2031年度) の年会費に充当)

寄 付 金 : (任意)

2026年度年会費納入済みの方を次ページに記載いたします。寄付金のお振り込みにご使用ください。

払込手数料は5万円未満の場合、窓口203円、ATM152円です。払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行備え付けの払込取扱票に、下記口座番号と加入者名を記入の上お振り込みください。

口座番号 : 00290-3-2419

加入者名 : 横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

★他の金融機関からのお振り込み

他の金融機関からお振り込みいただけます。その場合、預金種目、口座番号は下記のようになります。手数料は各金融機関、振り込み方式によって違いますが、3万円未満の場合は275～880円です。

銀 行 名 : ゆうちょ銀行 (9900)

店 番 : 029

店 名 : ○二九店 (ゼロニキュウ店)

預 金 項 目 : 当座

口 座 番 号 : 0002419

カ ナ 氏 名 : ヨコハマコクリツダイガクワンダーフォーゲルオーヒ

■ 訃報・入退会 その1

総務委員長 竹村 昇 (13期)

【 訃報 】

三人の方がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

横山幸子氏 (4期) 2025年3月24日 逝去

向井久弥氏 (5期) 2025年7月28日 逝去

井田貞司氏 (3期) 2025年8月23日 逝去

2026年度 年会費納入済み会員リスト

期	会員名		
1	嘉納、佐藤、吉田		
2	吉野、藤林、斎藤、多田		
3	渡辺、金田、腰塚、芹沢、塩谷、井田		
4	横山、高田、谷		
5	三宅、金子、早藤、諸角(壮)、矢島、中村、諸角(絢)、亀井		
6	江角、密島、久野、岡田(光)、岡田(美)、松本、鈴木、永井		
7	服部、井上、山田、松本、林、橋本、今井、鈴木、小木曾、古宮		
8	畠中、小出、須藤、田中、武藤、早坂(富)、松本		
9	三浦、木下、鈴木、上原、眞壁		
10	武重、鈴木、下村		
11	丹羽、安藤、大森、桜井、中林		
12	山川、武者、野口		
13	赤松、竹村、村松		
14	鈴木、小口、高木、吉田、上野		
15	小泉、安藤、赤松、岩船、中島、萩生田		
16	大場、清水、岩田、板垣、佐藤		
17	梅野、木村、葛窪、小浜、白須、武田、蜷川、渡邊		
18	植草(慶)、植草(美)、小山、勝山、塩川、伊達、壺井、福田、向井、山口(幸)、渡部		
19	磯尾、岡本、戸田、中島、笛木、南		
20	青山、加賀、作山、玉木、西田、林、武藤、安武		
21	河辺、坂元、白木、鳥井、長尾、藤倉、溝畠		
22	谷内、成島、西田(晶)、山本、舟本		
23	大津山、高山、中戸、根岸、丸茂、森嶋、吉田(豊)		
24	大津、北澤、酒井、田澤、成田、満留、八木、山辺		
25	柏木、高野、高木、永田、小佐野、古川、毛利		
26	大村、小宮、佐々木		
27	遠藤(勝)		
28	大庭、小久保、芳賀、松本、山本、和井田		
29	禪		
30	笹倉、田中、服部、福田		
31	伊藤、岡野、松尾、松田	32	藤森
34	井口、小野、田中、親跡	35	曾根、富澤、土方
36	辻	37	伊藤、佐々
40	村上	41	石川、笠原
46	塩野	48	安田
51	中野	54	軍司
56	中山		

■ ご寄付一覧

会計幹事 吉野大次郎 (2期)

会計幹事 松本 和之 (29期)

2024年11月1日から2025年8月31日までにいただいたご寄付の一覧です。

皆様からのご厚志にお礼申し上げます。

期	会員名	金額
1	佐藤 文雄	88,000
2	吉野大次郎	3,000
2	岩上 克尚	3,000
5	亀井 昭子	2,000
9	梶野 美智子	1,000
18	向井 良作	50,000
20	西田 雅典	10,000
22	山本 炳朝	5,000
22	寺島 一希	3,000
22	寺島美佐緒	3,000
28	大庭也寸志	5,000
28	芳賀 剛志	10,000
29	福島 昌彦	1,000
30	土生 達也	3,000
34	小野恵美子	2,000
	(懇親会残金)	1,271

■ 訃報・入退会 その2

総務委員長 竹村 昇 (13期)

【入会】

旧友や今年の卒業生が入会されました。ようこそ、OB会へ。宜しくお願いします。

酒井俊一氏 (22期) 2025年2月24日 入会
稗田省三氏 (11期) 2025年4月29日 入会
塙坂昂太郎氏 (65期) 2025年3月29日 入会
金田一麗奈氏 (65期) 2025年3月29日 入会
林泰志氏 (65期) 2025年3月29日 入会
松田涼花氏 (65期) 2025年4月29日 入会
井田侑子氏 (4期) 2025年9月21日 入会

■ シニア歩こう会（2024年秋の部～2025年春の部）報告

シニア歩こう会委員長 早坂 宗（8期）

シニア歩こう会の2024年9月第21回から、2025年6月第28回までの活動を報告します。

第21回「大多摩ウォーキング」 2024年9月12日 参加者34名 リーダー 11期 安藤貞利

予想外に暑い日でした。古里を30名で出発しましたが、出発して程なく転倒した人が出て、3名が古里に戻りました。遅刻した4名の人が、鳩ノ巣から加わりました。白丸で6名がリタイヤして、奥多摩駅まで歩き通したのは22人でした。最後の車道歩きは灼熱地獄のようでした。川沿いにシュウカイドウの花が咲いていました。



第21回 古里駅にて

参加者 嘉納(1)、吉野(2)、金田(3)、井田夫人、戸倉(郡司友人)、谷上(4)、羽島(5)、羽島夫人、諸角絢(5)、谷合(5)、富岡清(岡田友人)、富岡真(岡田友人)、岡田光(6)、岡田美(6)、斎藤(6)、久保木(7)、井上(7)、松本(7)、林(7)、橋本(7)、小木曾(7)、小出(8)、川崎(早坂友人)、平沼(8)、早坂宗(8)、浅井(平沼友人)、田中(8)、綾部(8)、綾部主人、鈴木(9)、安藤(11)、榎本(12)、竹村(13)、堀内(竹村友人)

第22回「隅田川七福神巡り」 2024年10月15日 参加者 44名 リーダー 9期 鈴木弥栄男



第22回 多門寺前にて

集合時刻10時半に堀切駅西口前の広場を出発した。天気は好天に恵まれ、七福神【毘沙門天・寿老神・福禄寿尊（昼食）・弁財天・布袋尊・大國神・恵比寿神】をゆっくりウォークすることができた。解散式はスカイツリーの眺望がいい芝生の公園に急遽変更して開き、参加した皆さん多少汗をかくも、楽しみながら平坦地を無事に歩き通し、七福神を詣でて、楽しまれたようだ。

参加者 嘉納(1)、塚原(2)、金田(3)、井田夫人、戸倉(郡司友人)、谷上(4)、郡司(4)、羽島(5)、羽島夫人、諸角壮(5)、諸角絢(5)、富岡清(岡田友人)、富岡真(岡田友人)

友人)、寺澤(岡田友人)、岡田光(6)、岡田美(6)、斎藤(6)、久保木(7)、井上(7)、松本(7)、林(7)、橋本(7)、小出(8)、小谷(8)、川崎(早坂友人)、平沼(8)、早坂宗(8)、松本(8)、浅井(平沼友人)、溝田(8)、田中(8)、田中夫人、畠中(8)、須藤(8)、三浦(9)、原優(9)、上原昌(9)、梶野(9)、梶野主人(9)、鈴木(9)、山本(10)、丹羽(11)、左藤(12)、榎本(12)、竹村(13)

第23回「箱根浅間山ウォーキング」 2024年11月12日 参加者30名 リーダー 12期 榎本吉夫

箱根登山鉄道小涌谷駅を11時10分出発、紅葉はここ数日の寒さで漸く色付いたところであった。千条の滝で小休止、3m程度の崖から湧く伏流水は千条は無いが百条はありそうで、水量はそこそこであった。12時30分、30人全員、浅間山山頂に着く。昼食、写真撮影後、小涌谷駅へ戻るA班10名と、湯坂路を湯本まで下るB班20名に分かれて、13時15分山頂から下山を開始した。A班は、2名は登りコースを戻り8名は湯坂路最高峰の鷹巣山834m経由の周回コースで駅に下山した。Bコースは、標高差700m、距離4.5kmの長い下りの幅広い湯坂路を快適に下った。先頭は15時30分湯本、国道沿いの湯坂路登山口に到着した。ラストは約50分遅れとなつたが、シニア精鋭の方々は久しぶりの山下りを堪能していただけたと思います。



第23回 箱根浅間山山頂にて

参加者 嘉納(1B)、谷上(4B)、諸角絢(5B)、谷合(5A)、富岡清(岡田友人)(B)、富岡真(岡田友人)(B)、寺澤(岡田友人)(B)、岡田光(6B)、岡田美(6B)、斎藤(6B)、松本(6B)、久保木(7B)、松本(7B)、林(7B)、橋本(7B)、小出(8A)、川崎(早坂友人)(B)、平沼(8A)、早坂宗(8B)、浅井(平沼友人)(A)、田中(8A)、綾部(8A)、綾部主人(A)、上原優(9B)、鈴木(9A)、安藤(11A)、岩崎(12B)、榎本(12B)、竹村(13B)、吉田(14A)

第24回「弁天山、城山」 2024年12月7日 参加者26名

リーダー 8期 小出 徹

JR五日市線の武蔵増戸駅から歩いて「弁天山、城山」に登り、武蔵五日市駅に帰ってくる里山のハイキングコースを歩きました。参加人数は26名。天気に恵まれ、そう寒くもなく、紅葉の盛りの中を城山からの急な木段の



第24回 小峰公園にて

下りもゆっくりと、今年最後の静かな里山歩きを楽しむことができました。

参加者 嘉納(1)、小浜(吉野友人)、吉野(2)、腰塚(3)、井田夫人、戸倉(郡司友人)、諸角絢(5)、谷合(5)、富岡真(岡田友人)(6)、岡田光(6)、斎藤(6)、久保木(7)、林(7)、小出(8)、川崎(早坂友人)、平沼(8)、早坂宗(8)、浅井(平沼友人)、田中(8)、須藤(8)、上原優(9)、鈴木(9)、山本(10)、丹羽(11)、安藤(11)、小泉(15)

第25回「鷹取山、神武寺」 2025年3月26日 参加者41名

リーダー 8期 田中 稔

京急追浜駅から歩いて湘南妙義「鷹取山」に登り、源氏ゆかりの「神武寺」を経てJR東逗子駅に至るハイキングコースを歩いた。天気に恵まれ快晴だったが、中国からの黄砂のため展望は今一つだった。都の染井吉野の開花は24日に宣言されたが、途中の桜並木も一部に開花が認められる程度であった。花よりダンゴで持参の食事を満喫した。11名は途中退出し、残り30名が2016年12月例会で歩いた神武寺へのコースを歩いたが、9年の歳月は平均80代のシニアには厳しく、コースタイムの倍を掛け神武寺を参拝し、東逗子駅に全員無事下山した。



第25回 鷹取山にて

参加者 嘉納(1)、塚原(2)、腰塚(3)、塩谷(3)、谷上(4)、郡司(4)、竹内(4)、井田夫人、戸倉英(郡司友人)、諸角絢(5)、谷合(5)、谷合夫人、羽島(5)、羽島夫人、高須夫人、岡田光(6)、岡田美(6)、斎藤(6)、桜井(6)、藤井(桜井友人)、富岡清(岡田友人)、富岡真(岡田友人)、橋本(7)、久保木(7)、小出(8)、早坂宗(8)、早坂富(8)、田中(8)、須藤(8)、溝田(8)、綾部(8)、綾部主人、上原昌(9)、上原優(9)、鈴木(9)、安藤(11)、左藤(12)、榎本(12)、竹村(13)、吉田(14)、小泉(15)

第26回「佐倉 歴史と花のウォーキング」 2025年4月15日 参加者26名

リーダー 10期 山本陽一

京成佐倉駅に集合し、前半は城下町として栄えた佐倉の中心街の市立美術館～武家屋敷群～ひよどり坂～佐倉城址公園を経て国立歴史民俗博物館を歩いた。後半は、そこから鹿島川沿いを3km歩いて、印旛沼湖畔の花の名所である佐倉ふるさと広場で約100種・60万本のチューリップを楽しみ、その後、長嶋茂雄氏の母校である臼井小学校経由でゴールの京成臼井駅に向かった。



第 26 回 佐倉城址公園にて

参加者 嘉納(1)、腰塚(3)、井田夫人、戸倉(郡司友人)、羽島(5)、羽島夫人、谷合(5)、谷合夫人、金子(5)、岡田光(6)、岡田美(6)、久保木(7)、林(7)、橋本(7)、川崎(早坂友人)、平沼(8)、早坂宗(8)、浅井(平沼友人)、綾部(8)、綾部主人、下村(10)、山本(10)、安藤(11)、稗田(11)、小泉(15)、小浜(吉野友人)

27 回 「多摩丘陵(長沼公園/平山城址公園)」 2025 年 5 月 9 日 参加者 27 名 リーダー 14 期 吉田 忠

京王電鉄本線長沼駅に 10 時集合。歩行中はほぼ曇りで遠望は今一つでしたが、赤、青、白、色とりどりのツツジが咲きキンラン、ギンランも咲いていました。長沼公園の西側端を登り野猿の尾根道に入り展望園地に、平山口まで尾根を歩き住宅地を迂回して、平山城址公園の西園に上りました。平山城址公園東園の出口から田んぼ・畠のある宮嶽の谷戸へ出て長閑な里山散歩。トンネルらしきものを抜けて人間界に戻って京王堀之内駅で解散しました。途中、住宅地で 3 つの隊に別れましたが、トイレ下で合流できました。



第 27 回 平山城址公園にて昼食後

参加者 嘉納(1)、吉野(2)、腰塚(3)、井田夫人、戸倉(郡司友人)、谷上(4)、羽島(5)、羽島夫人、諸角絢(5)、岡田光(6)、斎藤(6)、久保木(7)、林(7)、小出(8)、川崎(早坂友人)、平沼(8)、早坂宗(8)、田中(8)、綾部(8)、綾部主人、須藤(8)、上原優(9)、安藤(11)、岩崎(12)、榎本(12)、吉田忠(14)、小泉(15)

第28回「多摩丘陵(小山田緑地から小野路宿)」 2025年6月9日 参加者35名 リーダー 6期 岡田光豊

小田急多摩線のターミナル駅・唐木田から歩き出す。いつ入梅宣言があってもおかしくない時期であったが、幸いにも時折陽射しがあり、ホタルブクロの群生や足元に咲くニワセキショウなどを愛でながらトンボ池、アサザ池を巡り、うさぎ谷吊り橋を渡りみはらし広場で昼食とした。ここからは富士山の眺望を期待したが曇天！ 下池、調整池を伝い町田市に入ると田植えの終わったばかりの田んぼや旨そうな枝豆の段々畑の広がる「奈良ばい谷戸」の緩やかな登りにかかる。7体ある六地蔵、小野神社を経て小野路宿里山交流館に到着・解散とした。バスで多摩センター駅や鶴川駅へ向かった。



第28回 小山田緑地にて

参加者 吉野(2)、腰塚(3)、井田夫人、戸倉(郡司友人)、羽島(5)、羽島夫人、谷合(5)、谷合夫人、岡田光(6)、岡田美(6)、斎藤(6)、松本(6)、井上(7)、松本(7)、林(7)、橋本(7)、小出(8)、川崎(早坂友人)、平沼(8)、早坂宗(8)、浅井(平沼友人)、田中(8)、綾部(8)、綾部主人、三浦(9)、上原優(9)、上原昌(9)、梶野(9)、鈴木(9)、下村(10)、山本(10)、丹羽(11)、榎本(12)、小泉(15)、小浜(吉野友人)

実施済みの歩こう会の写真、案内書は歩こう会ホームページ（下記URL及び右記QRコード）

https://yww.sakura.ne.jp/arukou_kai/

の左欄「歩こう会記録」をクリックし、各回の「写真」、「案内書」をクリックして見ることができます。



■ 清陵祭 国大山荘訪問記

吉野大次郎（2期）

2025年度清陵祭(5月17日～18日)に、ワンダーフォーゲル部は昨年に続き出店しました。

初日(17日)は雨の為客足は伸びませんでしたが、2日目(18日)は雨もやみ、麗らかな春の陽気に包まれ大勢の人で賑わいました。

飲食店の出店は約30店、隣は吹奏楽団のやきそばンドでした。

ワンゲル店舗名 国大山荘 メニューは

味噌煮込みうどん 500円

ぶっかけうどん 400円

人気は味噌煮込みうどんの方だそうです。味は良かったですが、量が少な目で高齢者向きかなと思われました。

その味噌煮込みうどんはなんと400円に値下げしていました。前日も途中から400円に下げたそうです。

店のすぐ前に屋根のついた休憩所があり、そこに座ってゆっくり食べました。

一回りして帰路、再び立ち寄ったところ、味噌煮込みうどんもぶっかけうどんも350円に値下げしていました。余程儲かったのですかね。



■ 自由投稿①「日本一低山縦走記」

佐藤文雄（1期）

—プロローグ—

忍び入る体力の衰えは如何ともし難く、私も80歳という大台に乗ってから足腰に痛みを感じるようになりました。ならば、私の人生のバックボーンとなったワンゲル精神（仲間とのつながり→友愛→他人への想い）と、それを培ったワンゲル活動の締め括りとして、日本一低い山と山との縦走をしようと計画しました。

国土地理院の地図は、今日のようなナビの時代になってもワンゲル部員にとっては必携のものでしょう。その地図に記されている一等三角点の最低山は、大阪・堺市にある「蘇鉄山」（そてつやま）であり、二等三角点の最低山は大阪市にある「天保山」（てんぽうざん）です。

この2峰を踏破し、縦走しようという壮大な計画です。

<日本一低山縦走記>

13:00 南海本線 堺駅

茶聖千利休で有名な堺駅に降り立った。ポカポカの陽気である。目的の蘇鉄山は駅前の大浜公園の中にあった。登山口までの距離は約800メートル、足慣らしにはちょうど良い距離である。標高6.97メートルの蘇鉄山をアツという間に踏破した。

13:20 蘇鉄山

登頂記念写真を撮り、次なる二等三角点の最低山天保山を目指し縦走のスタートを切る。途中旧堺灯台に立ち寄った。

13:45 堀灯台

明治10年に築上された高さ11.3メートルの六角錐形の灯台である。当初の場所に現存する日本最古の木造様式の灯台である。敬意を払って見学し、再び歩き始めた。住吉街道、熊野古道を横に見て、府道29号線を歩くこと約1時間、堺と大阪とのサカイ（ややこしい）をなす大和川に出た。架かる橋が阪堺大橋である。

15:10 阪堺大橋

全長224メートルの橋を渡り、最初の信号を左折すると先程の大和川通りに入る。この通りを歩き阿弥陀寺を右折し、しばらく行くと木津川に出る。

16:25 木津川の渡し（木津川渡船場）

“江戸の八百八町、難波の八百八橋”と言わされてきたが、大阪には橋が多い。

（閑話休題）

それも普通の橋ばかりでなく

跳ね上がる橋（大船橋）

旋回する橋（夢舞大橋）

川の下を通るトンネル隧道（安治川隧道）

のみならず、昔ながらの渡し船が8ヶ所（木津川の渡し、船町の渡し、落合の渡し等）もあり、これらは、公の渡しなので、渡船料などは取られない

この木津川を船で渡り、暫く行くとまた川があり、渡し場がある。船町の渡しである。

16:45 船町の渡し（船町渡船場）

この川も船で渡り、降り立ったところが大阪市港区である。いよいよこの縦走も最終行程に入るが、その前を大きな大きな壁が立ちはだかっている。なみはや大橋である。

17:00 なみはや大橋

全長1740メートル、高さ45メートルの橋です。（何と目指す天保山の10倍もの高さではないか・・・）勾配もきつく、自転車を乗ってきた人は、皆自転車から降りて押して行く。老いたりといえども私はワンゲル部員である。意地をかけてこの橋を乗り越えた。目の先を電車が通って行った。地上の高架を行くメトロ中央線である。

17:30 メトロ中央線

大阪市のほぼ真ん中を東と西を結ぶ地下鉄である。2025年に開催する大阪万博の会場となる夢洲（ゆめしま）までの延長工事がされていた。

17:45 天保山

国土地理院の地図によると、二等三角点の最低山である天保山は天保山公園の先端に鎮座している。標高4.53メートル。この山を最後の力を振り絞って登頂した。天保山の頂からは、今しも真っ赤な太陽が水平線上にゆっくりと沈み行くのが見えた。しばし見とれているうちに辺りは薄暗くなり、川越しにユニバーサル・スタジオの明かりがキラキラと輝き始めた。

—エピローグ—

この「日本一低山縦走」は、6年前の2019年秋に計画し、翌年春に実施する予定でした。ところが2020年年明け早々にコロナ禍のパンデミックによる外出自粛令が出されている時に、ちょっとした躊躇で転倒し右足のアキレス腱断裂を起こしてしまいました。

未だに実行できずにいる「幻の日本一低山縦走」になってしまいました。

■ 自由投稿②「百名山の思い出 その4・その5」

時田澄男（5期）

その4 富士山と周辺の山

深田久弥は、その著書「日本百名山」に、次のように記している[1]。

この日本一の山について今さら何を言う必要があろう。かつて私は『富士山』という本を編むために文献を漁って、それが後から後から幾らでも出てくるのにサジを投げた。おそらくこれほど多く語られ、歌われ、描かれた山は、世界にもないだろう。中略。一夏に数万の登山者があることも世界一だろう。老いも若きも、男も女も、あらゆる階級、あらゆる職業の人々が、「一度は富士登山を」と志す。これほど民衆的な山も稀である。一環境省のWebサイトによれば、2024年7月1日から9月10日までの登山者数は、204,316人だそうである[2]。一 東西南北どこから見ても、その美しい整った形は変わらない。富士山はただ単純で大きい。それを私は「偉大なる通俗」と呼んでいる。中略。富士山は万人の摂取に任せてしまふに何者にも許さない何者かをそなえて、永久に大きくそびえている。

山の魅力を知りつくした深田久弥だけあって、富士山のもつ魅力を端的にあらわしている。富士山に登ってみると、寒さと高山病に悩まされる。登山道は石ころばかりでお花畠や新緑、紅葉など見られない殺風景な山であるが、そんなことは一切記述がない。当時は5合目までの舗装道路などなく、標高の低いところから登ったために、高山病の恐れは皆無で、新緑、紅葉も愛でられたと思われる。富士山には数回以上登っている。記録が欠損しているものも多いが、以下に簡単に記す。

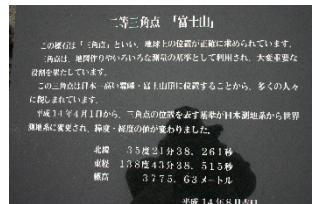
1回目 佐藤小屋→富士山 記録なし

2回目 1995年 佐藤小屋→富士山 22:17 山中湖別荘発 22:43 中の茶屋 23:29 旧登山道の少し下に駐車 23:40 出発 23:50 佐藤小屋 0:20 六合 1:10-1:20 おやつ 1:40-45 着替え 3:16 八合太子館 4:20 八合元祖室 5:00-5:40 本八合富士山ホテル 6:00 御来光館 7:00 富士山頂(3720m) 7:30 八合 7:40 江戸屋分岐 8:15 避難小屋 9:10 六合 9:30 佐藤小屋 9:40-56 駐車場 10:46 山中湖別荘着

3回目 1998年 20:00 出発 1:40 七合 3:18-4:30 八合 5:45-6:00 朝食 6:40-50 銀小屋 7:10-50 富士山頂上 下山記録なし。下記の富士山頂の写真を見ると、測候所のドームがあったことが分かる。現在は取り扱われ、富士吉田市にメモリアルとして移設されている。



富士山頂



二等三角点



日本最高峰の石碑



火口壁

4回目 2000年 富士宮口→富士山 1:56 駐車場発 2:35 登山口 2:50 雲海荘 3:40 新七合御来光山荘 4:20 七合目 4:53-5:05 御来光八合目 3250m 5:38 万年雪山荘九合目 3460m 5:58-6:15 朝食 6:32 胸突山荘 7:20 山頂 7:40-8:23 最高点 9:03-08 金明水 10:15 八合目 10:25 八合小屋 10:55 日の出館 11:20-35 小休 12:30 富士宮登山口 1:17 駐車場

5回目 2003年ころ 須走口→富士山 7:38 第2駐車場発 9:01 林館標高 2315m 9:41-45 六合目瀬戸館 10:59-11:19 太陽殿 標高 2790m 12:20-45 見晴館(本七合) 標高 3015m 昼食 13:23-13:28 八合江戸屋 標高

3145m(3350m)18°C 14:04-19 本八合江戸屋トモ工館 15:09-15:14 富士山頂 標高 3375m 16:20-17:30 久須志神社 18:00 本八合 20:07 須走登山口

6回目 2005年 富士宮口→富士山 4:05 駐車場着 4:20-5:27 朝食カレー 6:07 新五合 2260m 6:27 宝永山荘 2365m 7:21 新七合小屋 2650m 8:00-8:26 元祖七合目着替え 9:12-55 八合目 10:41-59 九合目万年雪山荘 11:26-33 九合五勺 3375m 12:25-40 浅間神社 12:55-1:30 剣ヶ峰昼食 14:26-30 万年雪山荘 14:52 八合目 15:22 元祖七合目 15:39-52 着替え 2795m 16:05 新七合 16:37 雲海荘 17:30 駐車場着

ほかに、吉田口→富士山 が2-3回あるはずであるが、残念ながら記録は逸散した。

2025年8月5日 NHK総合1 ブラタモリで富士山の放映があった。伊豆半島は200万年前には存在しなかった。海上80km位離れたところに海底火山の噴火による島がいくつあった。これがだんだん大きくなり、本州に近づいて衝突した。小山町に神縄(かんなわ)断層があり、伊豆半島衝突の現場であるという立札がある。この衝突で地下のフィリピン海プレートが2つに裂け、プレートのないところにマグマ溜りができ大量のマグマが蓄えられたために、現在の標高の高い富士山ができたという説があるとの紹介であった。しかし、いろいろ調べてみると、この説は定説ではなく、全く異なる説を唱える方々が大部分のようである。

富士山周辺の百名山登頂記録を以下に記す。

丹沢山 2000年 8:15 渋沢駅着 8:20 出発 8:30 大倉 9:20 見晴茶屋 9:38 一本松 9:53 駒止茶屋 10:08 二又分岐 10:28 戸沢分岐 10:53 花立山荘 11:12-14 アイゼン着用 11:30-12:13 塔ノ岳(昼食) 12:55 竜が馬場 13:20-30 丹沢山 13:47 竜が馬場 14:10 日高 14:31 塔ノ岳 14:45 金冷し右折鍋割方面 15:02 大丸 15:12 二又分岐左折 17:39 県民の森入口右折 17:48-18:08 バス停 18:25 渋谷駅着

天城山 2000年 YWVシニア山行 写真は霧雨のなか亀井良英さんにいろいろ工夫して撮影していただきた。花の写真は著者。ほかにタムシバなどが咲いていた(ビデオ撮影)。10:41 駐車場着 11:25 出発 12:45 万次郎岳 13:35-14:10 昼食 14:55 万三郎山 16:35 分岐四辻へ 16:50 登山口着



万三郎岳



霧雨の記念写真



アマギシャクナゲ

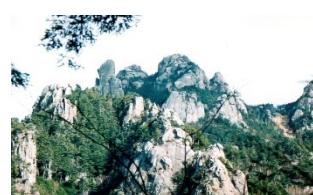


アカヤシオ

瑞牆山 1997年 8:28 登山口 9:10 富士見平小屋 9:36 ヤナギ沢 10:48 黒森分岐 10:53-12:02 瑞牆山昼食 13:25-35 富士見平小屋 14:00 登山口



瑞牆山頂



瑞牆山



甲武信岳山頂



甲武信小屋

甲武信岳 1970年 ころ埼玉大学秩父山寮(泊) ここから甲武信岳山頂までひたすら歩く。甲武信小屋(泊)。帰路は稜線上を東に向かい、破風山、雁坂峠を経て下山した。コースタイムなし。写真はセピアに変色した。

甲武信岳 2003年 6:45 毛木平着 9:07-12 十文字小屋 10:00-08 大山 10:45 武州白岩山(まき道)

10:50-11:20 昼食 11:38 尻岩 12:35-40 三方山 13:03 柳小屋分岐 13:15-30 甲武信岳 13:57-59 千曲川源流 16:34 毛木平

雲取山 1995 年 7:59 登山口発 10:08 ブナ坂 10:33 奥多摩小屋 11:24 雲取山 14:29 七ツ石小屋 15:56 登山口

雲取山 1995 年 8:30 長沢谷登山口発 10:44-49 大ダワ 11:08-13 雲取山荘 11:33-12:25 雲取山 12:45 小雲取山 13:20-28 雲取山荘 13:44 大ダワ 15:37 登山口

雲取山 1995 年 6:20 鴨沢登山口発 10:18 奥多摩小屋 11:20 雲取山 14:48 奥多摩小屋 18:06 登山口

雲取山 1996 年 8:20 登山口発 11:56 ブナ坂 12:25-13:10 昼飯奥多摩小屋 14:13-14:30 雲取山 15:10 大ダワ 17:30 登山口

雲取山 1996 年 8:26 登山口発 9:46 堂所 11:16 ブナ坂 12:40-13:26 昼飯 13:38-14:05 雲取山 12:45 小雲取山 15:14 ブナ坂 16:18 堂所 17:05 登山口

雲取山 1998 年 8:45 駐車場 9:15 三条の湯 9:45 青岩谷分岐 11:35 三条ダルミ 12:10-13:10 昼食 13:15 雲取山 13:50 奥多摩小屋 15:02 奥後山 17:10 駐車場

雲取山 1999 年 7:05 登山口発 11:50 小雲取山 12:10-13:00 雲取山 16:04 登山口

雲取山 1999 年 7:45 登山口発 11:31 白岩山 12:07-12:39 大ダワ昼食 13:35-50 雲取山 14:21 大ダワ 15:12-33 白岩山 16:05 前白岩山 18:01 登山口

雲取山 2001 年 7:28 登山口発 10:10 七ツ石小屋 11:43-12:20 奥多摩小屋昼飯 13:01-05 小雲取山 13:30-13:45 雲取山一面の雪で奇麗 14:33-14:43 奥多摩小屋 15:15 登山口

雲取山 2001 年 5:11 登山口 8:50 北天のタル 9:38 飛龍山 11:45-12:32 昼飯 14:54 雲取山 18:06 下山

両神山 1995 年 6:44 両神山荘下に駐車 7:58 日向大谷 (両神山荘下) 出発 7:33 会所 8:15 渡沢 9:15 弘法の井戸 9:27 清滝小屋 9:52 一位ガタワ 10:07-17 小休 10:27 鏡平 10:43 両神神社 10:54 富士見坂 11:16-12:13 両神山頂 12:42 両神神社 13:07 産休尾根 13:16 鐘ヶ坂 14:53 会所 15:25 日向大谷

両神山 1996 年 5:54-6:34 白井差朝飯 8:04 一位ガタワ 10:15-35 両神山頂 13:51 白井差

両神山 1997 年 6:10 出発 7:35 一位ガタワ 9:06-30 両神山頂 11:26-12:08 昼食 12:13 白井差

両神山 1999 年 9:10 白井差発→両神山→大峠→16:30 白井差

両神山 2000 年 10:11 日向大谷 10:42 七滝分岐 11:40-12:05 昼食 13:40 一位ガタワ 15:30-50 両神山 17:53 会所 18:20 下山

大菩薩嶺 2000 年 8:25 駐車場発 8:55-10:00 上日川峠 10:22 福ちゃん荘 11:35 雷岩 11:45 大菩薩嶺 11:55 雷岩 12:30-13:26 賽の河原避難小屋 昼食 13:40-45 大菩薩峠 14:20 福ちゃん荘 14:45 上日川峠 15:15 駐車場

[1] 深田久弥 日本百名山 新潮社 1991 第 27 刷(1995) p305。

[2] 2024 年夏期の富士山登山者数について[随時更新](~9 月 10 日まで)|関東地方環境事務所|環境省

その 5 北アルプス

ワンゲル部員として所属した 4 年間、山行はあまり得意ではなかった。新人合宿の帶名山で滅茶苦茶バテてしまつたこと、初年度の立山合宿にお金がなくて参加できなかつたことがきっかけであったかもしれない。当時

は「ワンゲルは文化サークル」と唱える先輩が多かった。夏合宿も東北地方の平地を1週間ほどワンダリングして集結地は岩手山というような、地域住民との対話を重視する計画だった。したがって、もっぱらその地方の文化や地誌を調査する仕事に没頭していた時期もあったと記憶する。

これが、百名山を目指すように180° 転換したきっかけは、修士2年には在学中、5期の仲間から上高地行きを誘ってもらったことに始まる。1966年の夏であった。梓川から奥穂を眺め何故か同行2名で槍ヶ岳に登ることとなり、山の魅力にすっかり取りつかれたことであった。

手始めに針ノ木から白馬岳の縦走に挑戦した。経由した山は、爺ヶ岳、鹿島槍ヶ岳、五竜岳、唐松岳である。いくつかの写真が残っている。

大学に就職して2年目の1971年、研究室の学生6名らと再び上高地を訪れた。当時は上高地まで車で入れたので、テント、炊事用具などのほか、麻雀台等も積んでのちょっと不謹慎なものであった。学生さんたちの同意が得られ、焼岳と奥穂岳に登った。山の経験皆無の方々が大部分で、よくついてきてくれたものと感謝しているとともに、楽しい思い出である。卒業しておじいさんになった皆さん、今でも楽しかった印象が残っていると連絡してくださるのが嬉しいかぎりである。



ウエストン碑



焼岳を背景に



梓川



5期同期会 (2016)

1973年には、妻と上高地を訪れた。妻もおおいに感激してくれた印象がある。当時は百名山の意識はなかったが、知らず知らずのうちに、奥穂岳、焼岳、槍ヶ岳、白馬岳、五竜岳、鹿島槍ヶ岳という6座に登頂していくことになる。深田久弥の「日本百名山」によれば、北アルプスで最も賑わう山は、白馬岳と槍ヶ岳であるという[1]。人気の山々を経験したことが、百名山を目指すことに繋がったと思われる。古いものでコースタイム等はほとんど残っていない。順路のみ記す。焼岳2001年はコースタイムが残っていた。

槍ヶ岳 1966年 上高地 徳沢 横尾 槍ヶ岳山荘 (泊) 槍ヶ岳 横尾 徳沢 上高地

運動不足のお仲間が徳本峠を超えて島々駅に行こうというので付き合う。槍ヶ岳から明神まで1,600mも下りたのに、徳本峠まで600m登って、島々まで1,500mも下るという強行軍となった。



槍登山



穂高から見た槍



徳本峠



焼岳小屋



岳沢、穂高



奥穂高岳山頂

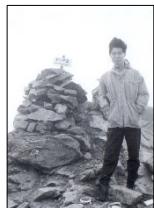
焼岳 1971年 上高地 田代橋 岐沢 新中尾峠 烧岳北峰 烧岳南峰 上高地

焼岳 2001年 12:20 烧岳登山口 (中の湯の少し上) 11:45 分岐左へ 14:13-35 昼食 15:18-20 尾根
15:35-50 烧岳大展望 16:28 分岐 17:38 烧岳登山口

奥穂高岳 1971年 上高地 岳沢小屋 紀美子平 奥穂高岳 (泊) 白出のコル 涸沢 徳沢 上高地

白馬岳、五竜岳、鹿島槍ヶ岳 (後立山縦走) 1972年ころ扇沢駅 大沢小屋 針ノ木小屋 (泊) 針ノ木岳 赤沢岳 鳴沢岳 岩小屋沢岳 種池山荘 (泊) 爺ヶ岳南峰 冷池山荘 鹿島槍ヶ岳南峰 キレット核心部 キレット小屋 (泊) G5 五竜岳 五竜山荘 最低鞍部 唐松岳頂上山荘 (泊) 唐松岳 不帰二峰南 不帰二峰北 不帰一峰 天狗の頭 白馬鎧ヶ岳 白馬山荘 (泊) 白馬岳 葱平 白馬尻 猿倉 (バス) 白馬駅 (信濃四ツ谷駅)

白馬岳は大いに気に入り、直後に大雪渓から登った。白馬山頂でブロッケン現象に遭遇。自身の形もくっきり。余力があり、白馬朝日岳を経て日本海側に抜けた。白馬山頂写真はその時のもの。



針ノ木岳



赤沢岳



五竜岳



鹿島槍ヶ岳



白馬山頂



大正池



白馬朝日岳



morgen rot 槍 山影は常念



morgen rot 穂高 山影は常念

常念岳 1998年 5:37 三股・林道ゲート発 5:50 三股 7:37-43 小休 8:42-57 小休 10:50-11:30 昼食
11:40 避難小屋（石室、泊）4:10 出発 5:10-45 常念岳 6:12-18 小休 8:05-25 朝食 10:35-11:43 蝶ヶ岳
15:18 三股 15:45 三股・林道ゲート

常念岳は、2003年にも同じコースで登っている。5期の集まりが安曇野で開催され、帰路に単独で訪れた。写真はこの時のもの。

黒部五郎岳 鶯羽岳 水晶岳 薬師岳 2002年 14:40 飛越トンネル登山口 15:50-16:01 小休 16:03 くま洞



石室（避難小屋）



石室の屋根



常念岳



常念岳山頂日の出

峠 17:07-19 小休 17:21 仙人峠 18:12 鏡池平 18:33-38 寺地山 19:36 北俣避難小屋（泊） 4:50 出発
7:10-15 北俣岳 7:50 赤木岳 8:18-36 小休 11:08-12 黒部五郎岳の肩 11:28-36 黒部五郎岳 11:47-12:40
昼食 14:00-14:10 小休 14:27-33 黒部五郎小屋 17:10 三俣山荘（泊） 3:00 起床 4:00 出発 5:32-6:33 鶯
羽岳 7:10-14 ワリモ岳 8:12 水晶小屋 8:57-9:25 水晶岳（黒岳）大展望 9:56-58 水晶小屋 11:30-35 祖父
岳 11:54 三俣山荘 12:12-41 雲ノ平昼食 15:26-30 薬師沢小屋 17:22-17:53 夕食 18:36 太郎平小屋（泊）
4:00 起床朝食 5:15 出発 7:12-22 薬師岳山荘 8:22-9:16 薬師岳 9:50 薬師岳山荘 10:19-12:02 薬師平昼食
14:27-15:21 高山植物大群落 16:36 北俣小屋（泊）2:40 起床 3:15 出発 3:54 寺地山 4:12 鏡池平 5:45 くま
洞峠 6:18 登山口着

乗鞍岳 2002年 13:11 登山口発 13:55 肩の小屋 14:55-15:00 乗鞍岳 15:24 肩の小屋 15:53 登山口

笠ヶ岳 2002年 3:16 笠新道登山口 4:38 笠新道入口 10:27-11:37 昼食 12:51 笠ヶ岳山荘 13:10-22 笠ヶ
岳 12:51 笠ヶ岳山荘 15:30-16:06 ラーメン 18:05 登山口

立山 剣岳 2002年 9:00 室堂発 9:50-10:00 一ノ越 10:53-11:44 雄山 12:07 大汝山 12:20 富士ノ折立
12:55 真砂岳 14:55 剑山荘 16:00 夕食（泊）4:00 起床朝食 5:30 出発 7:35-40 前剣 8:30-9:00 剑岳 山

頂でプロッケン現象を観察 9:27 避難小屋 10:15-10:55 前剣昼食 11:34 一服剣 13:17-20 剣御前小屋
14:47 地獄谷 15:08 みくりが池 15:23 室堂

剣岳は記念すべき百名山完登の山。ドット疲労が出た。剣山荘でささやかなメモリアルを購入。山登り必ずしも得意でなかった者が完登できたのはYWVのお蔭と感謝。感謝の気持ちでキスリング用のこのYWV ワッペンをずっと保存している。

定年間際は大学の予算が毎年縮小し、学外からの獲得が急務とされ、いろいろと気苦労も多かった。文部省（現文部科学省）の重点領域という5億くらいの予算申請のヘッドを務めることになっていたのである。山行はそんなストレスを払拭してくれた。文部省は不首尾であったが、日本原子力研究所（1956 - 2005）から0.5億強の予算をいただくことができた[2]。重点領域は100名ものメンバーで組織するのに比べ、獲得予算は数名程度で使えるのでかえって効率が良かった。定年の年度にも新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の予算が通り、後継者にも貢献できた[3]。メンタル面を支えたYWVと百名山という独断的で自分勝手な挑戦を暖かく見守ってくれた妻那珂子のお蔭と思っている。



剣山荘メモリアル



YWV



YWV キスリング

[1]深田久弥 日本百名山 新潮社 1991 第27刷(1999)p198

[2]時田澄男 高感度γ線検出のための機能性色素の開発 平成2000-2002年度 原子力基礎研究研究成果報告書
研究課題番号: H12-007 (2003)

[3]太刀川達也 NEDO 若手研究 (2004-2006)

■ 自由投稿②「ロングトレイル踏破！」

柏木修一 (25期)

横浜港(東京湾)から親不知(日本海)までのロングトレイルを踏破

1 はじめに

振り返ると30代～50代半ばの期間は、全く山を登っていなかったが、YWV山行や個人山行で過去に歩いたコースを地図に記入したところ、丹沢、道志、奥秩父、大菩薩、八ヶ岳などは主脈をほぼ踏破していた。そこで、近年、空白の区間を少々無理に繋いで、本州中央部の横浜港から親不知までの区間における自分の足による横断を遂に成し遂げた（図1、図2）。これを目指したわけではなく約44年間に歩いたところを繋げた結果に過ぎないとは言え、それなりの達成感を味わうことができた。

なお、YWVOBの中には、既に東京湾から日本海まで踏破した方がいると思うので、本稿で紹介するルートは、あくまでも筆者好みのものと捉えて頂きたい。

2 踏破ルート

東京湾と日本海の間を全て山岳ルートで繋げようとしても東京湾の周りは低地であるため無理であるし、日本アルプスの代表である南アルプスを入れるとすれば、甲府盆地と松本盆地を東から西へ横切るか、両盆地南縁の山々を歩くことになり相当な距離があって難しい。このような理由から丹沢山地東端の経ヶ岳まで平地、経ヶ岳

から松本まで山岳、松本から白馬まで盆地東縁の山麓、白馬岳から梅海新道で親不知まで山岳を歩いた。まさにワンゲル（渡り鳥）なので、山岳に限らず里山や市街地を歩くことも許されるのではないか。

踏破ルート（図2、表1）にはYWV部室、相模メモリアルパークがある。相模メモリアルパークは、同期で早逝された小野文男君の眠る墓地で、彼のご両親から丹沢の山々を眺められる場所を選ばれたことを以前伺った。本厚木駅から彼の墓地まで歩くことで、今回のロングトレイルに加えた。表2は、表1のルートのうちYWV山行、OB山行及び国大生の時期に踏破した区間の詳細である。

3 印象深い区間

(1) YWV部室→厚木

表2の①のPWではYWV部室から塔ノ岳登山口の大倉まで歩いたが、この区間はその一部である。通常の山行では、電車やバスを乗り継いで登山口まで向い、登山口から自分の足で歩き始めてピークに立つ。普段生活している街とあまりに違う景色を眺めながら、「このピークと部室は、地続きで本当に繋がっているのか？」そんな素朴な疑問がいつしか沸いてきた。そこで、部室から塔ノ岳まで歩いて行くことにした。メンバーは同期竹内さん、26期関根さん、私で、夜に部室を出発して途中のファミレスで休憩や居眠りをしながら、ほぼ国道246号線を歩き続けて登山口の大倉に翌朝着いた。しかし、それなりに疲れてバカ尾根に取り付くのをあっさりやめて帰途についた。なんと軟弱であったか。それでも、この山行によって部室と塔ノ岳ピークは間違いなく繋がっている！と実感した。

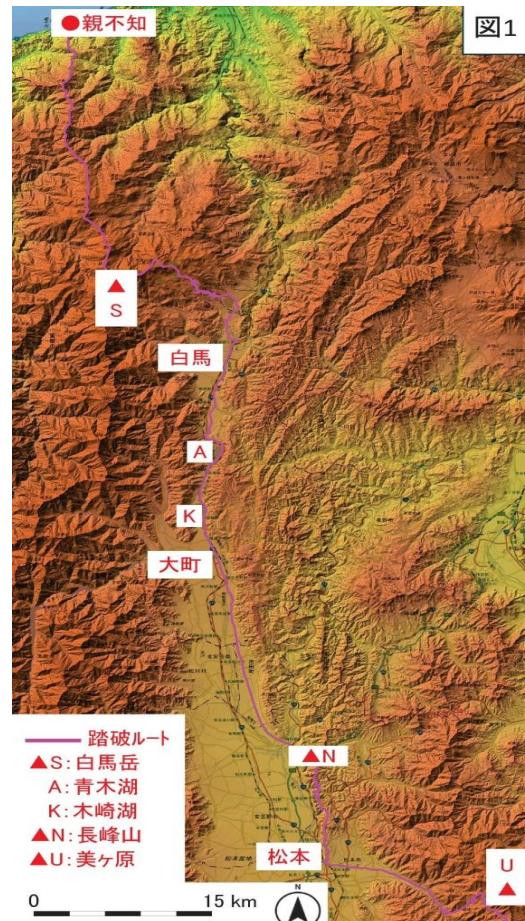


図1：踏破ルート（扉峠～親不知）

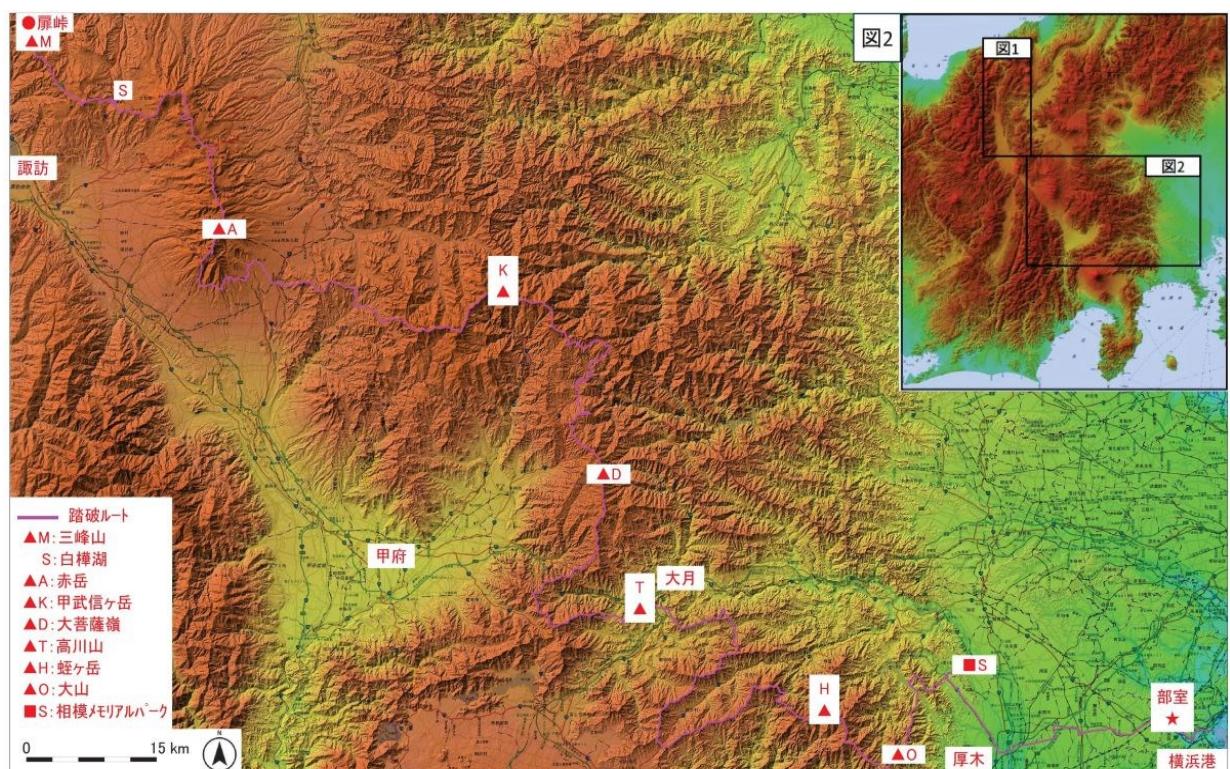


図2：踏破ルート（横浜港～扉峠）

(2) 高川山→鶴ヶ鳥屋山→笹子峠→笹子雁ヶ腹摺山→大谷ヶ丸

高川山（写真1）～大谷ヶ丸の区間は、表2の④と⑤により繋がっていた。しかし、下界の初狩駅を通過したルートが気になり、笹子峠を経由する尾根ルートへの変更に挑んだ。初狩、笹子、甲斐大和の各駅から尾根まで登り、小屋も無いため途中まで踏破して麓に下山し、後日同じ場所まで登り返す日帰り山行を繰り返した。人に会う頻度が極めて少なく、部分的に踏み跡程度。それを落葉が隠し、藪もあって道を見失いかけそうになることもあった。道標も限られるため、ガスで地形が分りにくい時には要注意であった。ニホンカモシカと猿には至近距離で遭遇、イノシシが地面を掘り返した跡？を見かけるなど、熊との遭遇も心配であった。特に、近ヶ坂峠→大幡峠→鶴ヶ鳥屋山の区間は尾根を断念して一旦麓に下りた。

(3) 瑞牆山荘→JR 清里駅→観音平

奥秩父連峰と八ヶ岳連峰を結ぶ区間である。主脈ルートとしては金峰山～小川山～飯盛山になるが、このうち小川山～信州峠の区間はルートファインディングに不安があるので、瑞牆山荘から山麓の車道を歩いて信州峠に向かった。信州峠～飯盛山は尾根が広くて一面クマザサに覆われ、踏み跡が不鮮明な場所もあり、地図を片手に尾根を外さないように歩いた。GWにもかかわらず途中ですれ違ったのは1パーティのみであった。飯盛山に近づくにつれ、八ヶ岳連峰が目の前にぐんぐん迫ってくる気持ちの良い縦走路であった。奥秩父連峰と八ヶ岳連峰は地形的に連続していないので、飯盛山からJR 清里駅にいったん下りて、清里駅～観音平は八ヶ岳横断歩道を歩いた。この道は展望がほとんど無く、いくつもの尾根や谷を巻きつつアップダウンを繰り返す。地図を見ながら現在位置を確認する読図のトレーニングには良いコースであった。

(4) 八島ヶ原湿原→鷲ヶ峰→和田峠→三峰山→扇峠→松本城

この区間は、まさにロングトレイルの名に相応しく、八島ヶ原湿原→三峰山の区間は中央分水嶺（会報No.85 筆者の拙稿を参照）に当たる。登山道は自動車道路と近接して、ときおりエンジン音が聞こえて山の中にいる感じがしないものの、三峰山（1887m）からの展望は素晴らしい中部山岳の多くの山々を眺めることができた（写真2）。

(5) 扇川橋→池田町→大町市→仁科三湖→神城→JR 白馬駅→梅池高原

扇川橋の南方に位置する長峰山は、北アルプスの好展望台である（写真3）。この区間（表2の⑫）は写真中央から右手に延びる低山の麓であり、活断層による変動地形をテーマとした筆者の国大修論の調査地域に当たる。大町から見上げる後立山連峰は、山腹に新緑、山頂部に雪が残る5月下旬～6月初旬が特に美しく、M2の1986年4月～11月、大町にアパートを借りて滞在し、地べたを這うアリのごとく連日歩き回った。仁科三湖の青木湖では、発電によって約20m 湖面が下がる時期に湖底も調査した。同期の竹内さんには神城盆地の調査を手伝ってもらった（写真4）。調査結果は仕事に就いて間もない頃に学会発表して放置、還暦目前に一念発起して論文執筆にとりかかり補足調査を最近行い、ロングトレイルの踏破と時期を同じくして計3本の査読付き論文を上げた。さながら住宅ローンの返済を終えた時のような気分を味わった。③は山との関係が深い山岳博物館の研究紀要である。

①	2021年	長野県北部、青木湖の湖底から得られた年代資料に基づく湖面変化『日本地理教育学会誌』 https://www.jstage.jst.go.jp/article/newgeo/69/2/69_21/_pdf/-char/ja	
②	2023年	長野県、仁科三湖の湖成段丘と木崎湖東方の風隙の成因『日本地理教育学会誌』 https://www.jstage.jst.go.jp/article/newgeo/71/1/71_22/_pdf/-char/ja	
③	2024年	古神城湖堆積物の露頭観察及びボーリング柱状図からみた古神城湖の変遷『大町市立山岳博物館研究紀要』 https://www.jstage.jst.go.jp/article/oam/9/0/9_17/_pdf/-char/ja	

4 今後の夢

本来であれば、松本盆地を東から西へ横切り、北アルプスを南部から尾根伝いに親不知まで繋げたいところだが、槍ヶ岳～後立山連峰の区間は登っていない山も数多い。今後、気に入った山に登りながら、いつの日か繋げたいと思う。

表1 横浜港から親不知までの踏破ルート

横浜港→YWV 部室→厚木→相模メモリアルパーク→経ヶ岳→仏果山→土山峠→辺室山→大山→ヤビツ峠→三ノ塔→塔ノ岳→丹沢山→蛭ヶ岳→檜洞丸→犬越路→神之川ヒュッテ→大室山→加入道山→菰釣山→山伏峠→御正体山→道坂峠→菜畠山→赤鞍ヶ岳→高畠山→九鬼山→富士急田倉駅→堀之内集落→高川山→鶴ヶ鳥屋山→清八山→笛子峠→笛子雁ヶ腹摺山→大谷ヶ丸→湯の沢峠→牛奥ノ鷦ヶ腹摺山→大菩薩嶺→丸川峠→鶴冠山→落合集落→大切峠→一ノ瀬集落→将監峠→鷦ヶ岳→雁坂峠→甲武信ヶ岳→国師ヶ岳→金峰山→瑞牆山荘→黒森集落→信州峠→横尾山→飯盛山→JR清里駅→美し森→八ヶ岳横断歩道→観音平→編笠山→権現岳→赤岳→硫黄岳→天狗岳→高見石→白駒池→麦草峠→縞枯山→雨池峠→横岳→大岳→双子山→蓼科山→スズラン峠→八子ヶ峰→白樺湖畔→大門峠→車山→八島ヶ原湿原→鷺ヶ峰→和田峠→三峰山→扉峠→松本城→アルプス公園→光城山→長峰山→犀川橋→池田町→大町市→仁科三湖→神城→JR 白馬駅→梅池高原→梅池自然園→白馬岳→梅海新道→親不知

注

- 1) 上表では、便宜的に北上するルート、つまり横浜港から親不知に向かって→を付けた。実際の山行・踏破ルートは逆コース (←) の区間もある。
- 2) 太字は、YWV 山行、OB 山行及び国大生の時期に踏破または通過した。

表2 表1の太字で示す YWV 山行、OB 山行及び国大生の時期に踏破した区間

No.	山行・踏破区間	期日	ワンダリングNo.など
①	YWV 部室→厚木	1983/10/29-30	1322 (PW)
②	塔ノ岳→ヤビツ峠	1982/7/3-4	1270 (夏トレ)
③	蛭ヶ岳→高畠山	1983/3/28-4/4	1300 (春合宿)
④	高川山→JR 初狩駅	2018/1/20	第51回 OB 山行
⑤	JR 初狩駅→湯の沢峠	1983/1/22-23	1292 (冬トレ)
⑥	落合集落→将監峠	1983/10/14-17	1281 (L 養合宿)
⑦	将監峠→甲武信ヶ岳	1981/5/29-6/1	1224 (新錬2次合宿)
⑧	甲武信ヶ岳→国師ヶ岳	1983/5/27-30	1303 (新錬2次合宿)
⑨	国師ヶ岳→瑞牆山荘	1984/10/13-16	1342 (L 養合宿)
⑩	白駒池→スズラン峠	1981/10/14-16	1239 (L 養合宿)
⑪	梅池自然園→白馬岳→親不知	1982/8/18-23	1277 (PW)
⑫	犀川橋→JR 白馬駅	1986/4月-11月	国大修論の調査

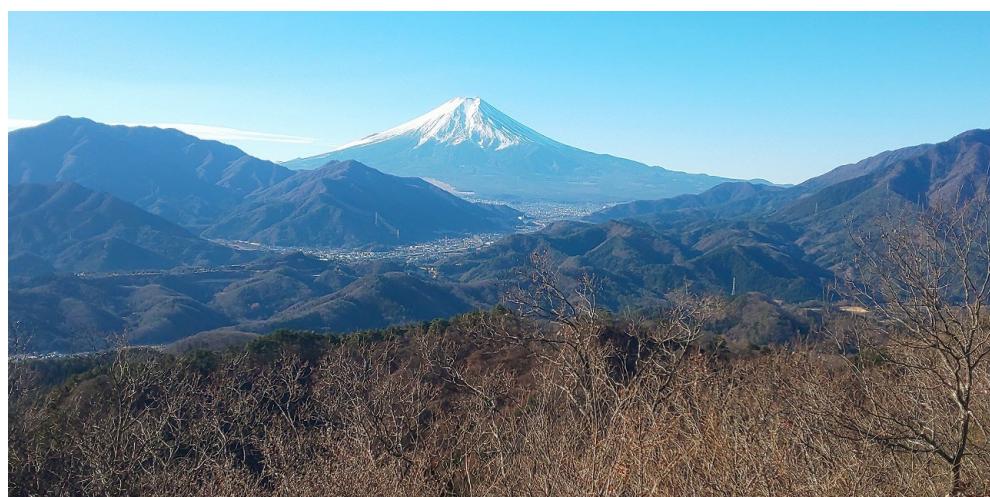
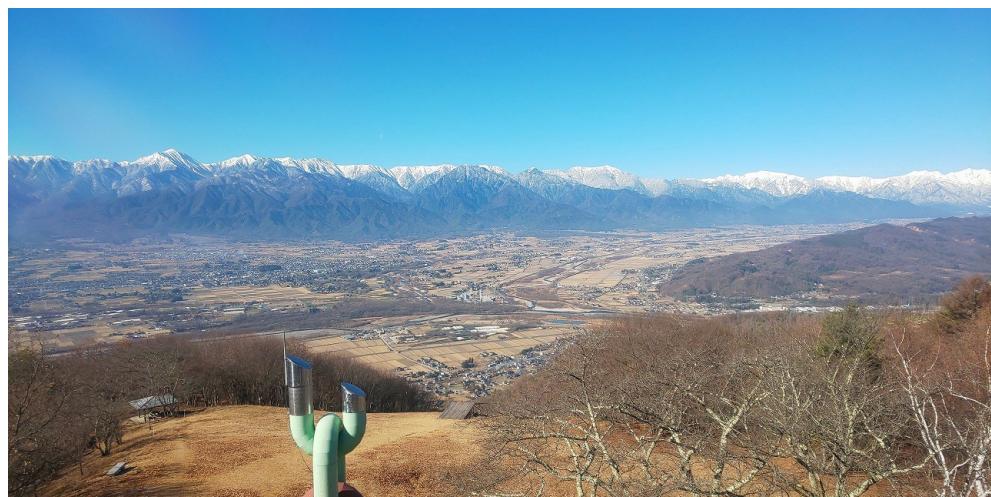


写真1：高川山から望む富士山



写真2：三峰山ピーク手前に広がる笹原

写



真3：長峰山から望む北アルプス（蝶ヶ岳～鹿島槍ヶ岳）



写真4：隆起して段丘を成す古神城湖堆積物（ポールを持つ同期の竹内さん）

■ 現役部員の活動紹介

主将 福原舜史 (67期)

お世話になっております。67期主将の福原舜史と申します。好きな山は黒部五郎岳です。2月に66期幹部から引き継ぎを受け、執筆時点で8ヶ月目を迎えました。今回は初めてのOB会報への報告ということで、張り切って書かせて頂きます。

本年度は新入部員30名（女性7名）を迎えて、総勢84名（女性24名）となりました。近年の増加傾向そのままで、たいへん大所帯となっております。

一方で、大人数で自然を相手に活動するにあたり、組織的な仕組みが不十分であるという課題もありました。そこで67期幹部を中心に、昨年末から制度改革を進め、今年度よりいくつかの仕組みを導入しました。ここではその一部を紹介します。

- ・審査会：山行計画書の内容を確認し、安全性と妥当性を審査する
- ・リーダー会：CL・SLを務めるメンバーが集まり、知識共有や振り返りを行う
- ・部則：これまでの不文律を明文化する

新たな制度は始まったばかりで試行錯誤も多いですが、安全で充実した活動の両立を目指し、次年度以降につながるYWVの新たなスタンダードとなれば良いと感じています。

ここからは、具体的な活動内容を報告させて頂きます。

- 4月 新歓登山（陣馬山、高尾山）、確定コンパ
- 5月 小屋開き、清陵祭への出店、塔ノ岳
- 6月 乾徳山、奥多摩での歩荷練習、テント泊練習（瑞牆山・金峰山）
- 7月 テント泊練習（天狗岳、尾瀬・燧ヶ岳・甲武信ヶ岳）
- 8月 夏合宿（谷川岳、赤岳（八ヶ岳）、穂高岳・富士山・白峰三山）
- 9月 夏合宿（朝日岳、北岳、聖岳、パノラマ銀座、八ヶ岳、剣岳、福島）

春学期はほぼ毎週末に登山を実施し、多くの部員が積極的に参加しました。夏合宿では北アルプス、南アルプス、八ヶ岳など全国各地の山域に1泊～3泊で挑戦しています。6月以降は特に天候に恵まれ、良い成果を挙げることができました。個人的にも、半年間準備していた南アルプス南部・聖岳への山行が成功におわり、ほっとしています。一方で、熊の影響により雲ノ平への山行は中止としました。他の活動においても、熊スプレーの新規購入など、部として対策を強化しています。

いつも温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。今後ともYWV現役の活動にご期待いただければ幸いです。



5月 塔ノ岳



5月 小屋開き



7月 天狗岳



7月 鏡ヶ岳



8月 白峰三山

■ 観天望 (編集委員会から)

編集委員長 石垣秀敏 (20期)

山岳遭難と長寿の心得

今年夏期（7-8月）における山岳遭難の概況が、9月16日に警察庁から発表がありました。この7-8月の2ヶ月に全国で起きた山岳遭難は808件、遭難者は917人で、統計がある1968年以降で最多になったそうです。遭難は低年齢層が多いのかなあと漠然と予想していたら、予想に反して60代が一番多かったのです。50代が190人、60代が199人、70代が166人でした。50~70代で合計555人、全体の約60%を占めています。遭難者の態様は、道迷い、滑落、転倒、病気、疲労など色々ありますが、転倒が216人で一番多いところを見ると、高年齢者（あっ、失礼！）、壮年層が一番多いこともうなずけます。OB山行参加者の年齢層もこの年代が主ですから、無事故になるようにみなさん気をつけましょう。私も気をつけます。この警察庁の報告書では、「山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足等が原因で発生している・・・」と書かれています。みなさんは知識・経験は十分あると思いますので、「体力的に無理はしないこと」をご留意ください。みなさん全員が無事故で長寿を満喫できることをお祈りしています。この報告書を詳しく見たい方は、警察庁のホームページの下記URL又は右記QRコードをご覧ください。



https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/chiiki/r7_kaki_sangakusounan.pdf

長寿をお祈りするおまけで、下の「長寿の心得」は如何でしょうか。

「長寿の心得 人生は六十から」

六十才でお迎えの来た時は 只今仕事中と言え

七十才でお迎えの来た時は 只今留守と言え

八十才でお迎えの来た時は まだまだ早いと言え

九十才でお迎えの来た時は そう急がずともよいと言え

百才でお迎えの来た時は 頃をみてこちらから ポツボツいくと言え

定食屋のチェーン店「しんばち食堂」に行った時に、湯呑みにおもしろいことが書いてありました。もしも、お迎えの来た時は、笑い飛ばして追い返しましょう。





2024年2月
御殿場 桜公園にて
楠本なぎさ氏(28)撮影

皆様からの投稿をお待ちしています。自由投稿の原稿、写真、スケッチ等を編集委員会にお送り下さい。メールアドレス henshu-mail@ywwob.org

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YWVOB 会 会報第 89 号

発 行：横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日：2025 年 10 月 11 日
発 行 責 任 者：会 長 西田 雅典(20)
編 集 責 任 者：編 集 委 員 長 石垣 秀敏(20)
編 集 委 員：編 集 委 員 武藤 功二(20)
編 集 委 員 楠本なぎさ(28)
顧 問 吉野大次郎 (2)
印 刷 所：株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1